中嶋 祥元 議員
魅力あふれる公園づくりには、ドッグランの設置が必要!!

問 市民が考える魅力あふれる公園に対し市の認識はどうか。

答 幅広い世代が楽しめ、交流できる公園との意見が多くあり、市もその思いを持って構想の取りまとめを実施した。

問 構想を策定する中で、ペットに関する市民の声はどうか。

答 アンケート調査では、ペット連れで楽しめる場所やドッグランがあればよいと思うとの回答があった。

問 約10％の世帯で犬が飼われている市内において、十分なスペースのあるフローラルガーデンよさみなどには、ドッグランの必要性が高いと考えるが、設置に向けた課題や市民のニーズはどのように捉えているのか。

答 犬の運動不足やストレス解消、飼い主同士の交流の場につながる一方で、公園の機能を確保しながらドッグランとしてのスペースも確保すること、利用者間のトラブルや清掃などの管理問題、においや鳴き声など周辺環境への課題が考えられる。現時点で市の施設として設置することは考えていないが、他自治体の取組状況を注視していく。

大山 実 議員
スポーツに対してもっと市民が盛り上がるような施策を!!

問 ホームタウンパートナー制度の目的とチーム数の推移はどのようか。

答 刈谷市をホームタウンとして、全国や世界で活躍するスポーツチームを認定することにより、スポーツの推進及びイメージアップを図ることを通じたスポーツの活性化を目的としている。平成31年度に13チーム、今年度は11チームである。

問 ホームタウンパートナーに対する市の対応はどのようか。

答 市ホームページ、ＬＩＮＥ、インスタグラム等を通じて試合日程やチームの紹介等の情報発信に努めている。

問 ホームタウンパートナーの認知度向上を目的とした実証実験の概要と今後の展開はどのようか。

答 刈谷市スポーツファンサイトをインターネット上に構築し、刈谷キラキラ教室のライブ配信や、選手とチャット交流できる配信などを実施している。閲覧数などを通して、認知度や試合の観戦者数増加に対する効果を検証し、次年度以降の事業実施について検討する。

外山 鉱一 議員
ＡＩは本市の英語教育を全国トップレベルと評価!!

問 ＡＩは本市をＡＬＴの活用や小中連携、児童の英語意欲の面で先進的な自治体と評価しているが、主な取組は何か。

答 刈谷市版指導案を作成し、学習環境を整えながら子供たちが楽しく学べる授業づくりに努め、小中連携では学びの連続を高め英語への意欲や実践力を意識した取組を行っている。

問 保護者や児童はどのように受け止めているのか。

答 保護者からは、正しい発音を身につけてほしいとの声があり、ネイティブスピーカーのＡＬＴを各学校に派遣している。６年生の約９割から「英語の勉強は大切」と回答があった。

問 中学校英語授業の英語実施における現状はどのようか。

答 原則英語による授業が行われており、生徒一人一人へのきめ細やかな指導を行っている。

問 本市が目指す英語教育はどのようか。

答 グローバル化が進む中で、子供たちには、世界に羽ばたき、活躍できる人になってもらいたい。そうした子供を育む英語教育に取り組んでいく。

武藤 美智代 議員
地域で支える力を育てる!!福祉の担い手づくりと人材確保を!!

問 ちょこっとささえあい事業の目的と経緯はどのようか。

答 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるため、ちょっとした困り事を地域で解決する取組が重要であると考え、生活支援の体制整備を目的に開始した。

問 利用状況と実績はどうか。

答 11月末現在で、利用者１６８人、サポーター３３７人、マッチング１０２７件に達し、12月から全地区へ拡大している。

問 介護人材確保の現状と認識はどうか。

答 現時点で事業所から深刻な相談はないが、高齢者や要介護認定者の増加を見据え、介護人材確保の取組は必要であると認識している。

問 厚労省が推進する介護未経験者等マッチング機能強化モデル事業をどのように受け止めているか。

答 民間事業者のマッチング機能を活用することで、関わりのなかった層が関心を持ち、介護人材の裾野が広がるとともに、介護職へ参入しやすい環境が作られるなど、介護人材を確保する大きな効果が期待される。

蜂須賀 信明 議員
市民のために考え、学び続ける職員を支える仕組みづくりを!!

問 限られた資源の中で最大の成果を上げるためには、その鍵となるＥＢＰＭ（根拠に基づく政策立案）の実践と、職員一人一人の力が重要だと考えるが、人事評価との関係はどうか。

答 人事評価は政策立案手法の要素だけでなく、業績目標の達成度合いなどを総合的に勘案するが、実行力やチャレンジ精神などを発揮すれば評価に考慮される。

問 新しい政策提案や業務改善に挑戦した職員を積極的に評価、表彰する制度はあるか。

答 業務改善制度では、提案された意見のうち、特に優秀な提案には表彰を行うとともに、取組内容を職員に展開している。

問 学び続ける職員を支える仕組みづくりに対する市長の考えはどのようか。

答 他市に負けないアイデアとチャレンジし続ける意識が重要と考える。日々変わる社会環境に対し、考え方ややり方を変える能力を磨くとともに、個人の感性を大切にしながら、自ら考え、意欲的に業務を遂行できるよう職員の成長を促していく。

谷口 睦生 議員
医療ＤＸの推進による円滑な予防接種事務のデジタル化を!!

問 予防接種事務のデジタル化の概要と効果はどうか。

答 マイナンバーカードを活用してスマートフォン等で接種勧奨の通知を受け取ったり、接種履歴の確認や管理、接種漏れや間違い接種の防止、里帰り等による住所地以外での接種手続を簡素化するほか、自治体でも接種記録の管理や医療機関等への会計事務を効率化できる。

問 デジタル化に向けたスケジュールはどのようか。また、課題と、その解決方法はどうか。

答 システム等の環境整備を令和10年４月１日までに完了させる。課題は２点あると考える。１点目は、市民の理解と利用促進である。デジタル化は新しい手法であることから、操作方法に不慣れな方の不安解消のため、広報活動を強化し必要な知識の普及に努める。２点目は、医療機関との連携である。デジタル化に伴い、医療機関等の事務処理にも大きな変化が生じるため、医療機関等と連携してシステム運用の詳細を共有するとともに運用方法を検討し、円滑な運用ができるよう努める。

編集後記
～かけはし～

◆２０２６年がスタートしました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。昨年は市制施行75周年の記念すべき節目の一年でした。市民の皆様と共に歩んできた歴史を振り返りながら、野外音楽フェス「ＫＡＲＩＹＡ大演会」や東京ディズニーリゾート®スペシャルパレードをはじめとした様々な記念事業を開催することができました。これらの催しには、市内外から多くの方に御参加いただき、刈谷の街に多くのにぎわいと笑顔を生み出してくれたと思います。御参加、御協力いただいた皆様に、心から感謝申し上げます。

◆２０２６年は、60年に一度しか巡って来ない、丙午（ひのえうま）の年です。丙（火）と午（馬）が組み合わさり、強いエネルギーで道を切り開く、躍動感や活力に満ちた年とされており、新しい挑戦や前進には良い時期と言われています。力強く駆け抜ける馬のように、75周年の勢いをさらに加速させ、刈谷市政が一層飛躍する年になることを願います。刈谷市議会といたしましても、市民の皆様の声に耳を傾け、さらに住みやすく活力あふれるまちづくりを推進するために全力を尽くしてまいります。

◆結びに、皆様にとって、２０２６年が心身ともに活気に満ちた、パワフルな一年になることを祈念いたします。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

（議会広報委員会）